

ヴォイス6号

別冊

一緒に走って みませんか？

～私学助成増額を求める

活動に参加して～

中島 大地 (高1)



「私学助成増額を求める活動」(堅苦しいなあ・・・)について、僕が何かを書いて良いのか。その問題を深く考察できるほど、活動に深く関わったといえるかどうか、というのは考えどころではあります(愛知に行ったこともないし・・・)。適任の人の名前が、今すぐにでも思いつきます。しかし、僕なりに書けることも何かしらあるのではないかと思いますので、正直なところを書いていこうと思います。

これまで関わりのなかった人にも興味をもってもらえるよう、誰が読んでも理解できるように説明できたら良いなあ、と考えています。

最初からこのような書き出しでは、読む人をうんざりさせてしまう気がする。

さっそく本題へ。昨年(2008年)の秋のことから順繰りに書いていこうと思います。

2008年10月11日。新潟県の越後湯沢にて全国父母教育懇談会(以下フボコン)というものが開催されるということで教員の車に乗せてもらい、埼玉県飯能からはるばる3時間かけ、3人の友達と一緒にそれに参加しました。僕が、私学助成金のことに興味を持つようになったきっかけは、それに参加したことでした(もちろん、自由の森学園と私学助成金活動とのつながりはもっと以前からあったのだけど)。

出発地・飯能は晴れていたのに、到着した越後湯沢は激しい雨。随分と遠いところに来たのかも知れないと感じました。着いたらまずは腹ごしらえ、というわけで、温かいうどんを食べることに。遠出した時の楽しみの一つはやっぱり食事です。

それから、フボコンの会場となっているある高校の体育館へ向かいました。まずは全体会。フボコンの代表による挨拶などがありました。その後、『第一分科会 私学助成金の充実を～学習と経験の交流～』『父母懇・すすめる会活動について～いろいろなつながりで 子らすこやかに～』など、諸々のテーマを掲げる分科会にそれぞれ分かれました。

僕は、「自由の森学園における平和教育の実践」について語ることになっていたのが大人の分科会に参加し、30分くらい喋りました。20人程度の大人と相対して語るのは緊張するけど、面白いことでした。

しかし、それよりももっと刺激的だったのは全国の高校生と座談会のような形で喋れたことです。夜ご飯を食べたあと、くじびきをして同じ番号をひいた7人の高校生と30分程度語り合いました。

地元・新潟ばかりでなく、愛知や、神奈川から来ている人がいました。日本各地から、いろんな高校生が集まってきていました。彼らは、今自分の地域がどういう状況かということ自分の言葉でしっかりと語っていました。

「私たちの県は、学校に支払われる私学助成金の額が全国の中でも低い方なのに何も出来ていない。これから頑張っていきたいんだ・・・」

「私たちの県ではさ、高校生が主体的に動いているんだよね。毎回、300人集めるとかきちっと目標をつくって、それに向けて頑張っている。それで、みんなで群舞を踊って、署名もたくさん集めているからめげないでいられる」

「僕の友達には授業料を払うために、バイトに励んでいるやつがいる。どうにかしないと、とは思っているけど、難しい」

「やっぱり、しっかりと組織つくとダメ。高校生自身が」

「それが大変なんだよね・・・」

僕は、戸惑ってしまいました。

学校ごとに配られる私学助成金が、埼玉県は最低ランクだということはもちろん知っています。以前から、何度も「もしも自由の森学園がすぐその青梅（東京都）にあったなら、年間1億は助成金を多くもらえたらうに・・・」という愚痴を聞いていました。ようするにそれだけ埼玉がひどいということです。

しかし、知ってはいたけど、それを改善するべく努力しようなんてことは考えたことはありませんでした。

君の県はどのなの、と聞かれた時に答えられることはありません。去年は、埼玉がフボコンの開催地だったから、何らかの活動はあったはずだけど・・・と言葉を濁してしまいました。

「ねえ君ってあの芸能人に似ているよね、あの、誰だっけ、『Dr. コトー診療所』の・・・」と誰かが口にしたことでその話題は途切れました。僕は、「誰のこと？」ととっさに答えていたけど、頭の中ではその後もさきほどの話題を考え込んでいました。

その夜は、越後湯沢の民宿に泊まりました。

翌日、起きてみると快晴。青く澄んだ空に太陽が輝き、新潟の山々を照らしています。越後湯沢はきれいだなぁなどと思いながら、ぼんやりしているうちに全国から来ている各県の生徒代表の挨拶や、大人の宣言があって、フボコンは終わってしまいました。

帰りももちろん車。眠くてうとうとしていると後ろ座席から喋り声が聞こえる。

「熱いねー。埼玉も頑張らなくちゃ」

「っていうか、それより、あの女の子の名前が思い出せないんだけど」

「誰？」「あの髪の毛の長さ、同じ部屋だった子。その・・・」

「え、う～ん誰、どんな子？・・・」

「頑張る」と叫んでいるけれど、何を頑張るのだろうと疑問に思いました。

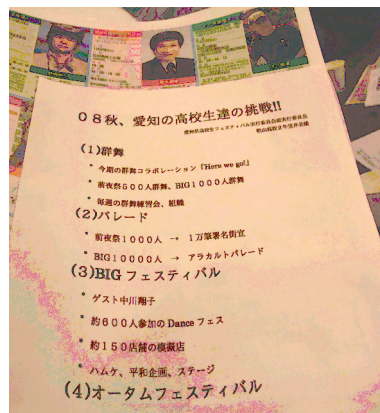
ただし、とくに考えがあるわけではないけれど、これから何かを始めなければいけないという思いはありました。何から始めればいいのか。そんなことをぐるぐると考えているうちにふと目を閉じたらそのまま眠ってしまいました・・・

僕は、前年の埼玉県嵐山で開催された全国フボコンや、今年6月の神奈川県小田原で開催された関東ブロックフボコンにも参加していたので、私学助成金の問題は、以前から知っていました。しかし、それはただ単に知識として頭の中に入っているというだけに過ぎなかったように思います。

新潟全国フボコンに参加した結果、私学助成金の問題は自分にも関わりのあることなのだ、ということを明確に意識するようになりました。やはり、他の地域からやってきた高校生と語り合えたことが、大きなきっかけになったのだと思います。

とくに愛知の女の子のはなしが衝撃的でした。彼女のはなしを要約すると・・・

「愛知には私学助成増額活動のための生徒の実行委員会のようなものが存在する。学校単位の参加ではなく、生徒1人ひとりの個人的な参加という形。愛知中の高校生が集まっている。私が通うのは女子高。学校側は、他校の男子生徒との接触という悪影響や、受験への悪影響などを気にして、私学助成増額を求める活動にひどく消極的だけど、私は活動の中心メンバーになって動いている。中心メンバー（実行委員長、係長みたいなもの）は、1週間ずっと駆け回っている。月火水木金土、全部予定が入ってくるほど忙しい。そのメンバーは半年ごとに交代。みんなでしっかりと組織をつくって署名・群舞などを行う。年に1回くらいは大きな催しを行うこともある。いつも1万人以上の人間を動員している」



帰ってきてから、少しずつ私学助成金のことを考えるようになりました。

「埼玉県の私立高校生1人あたりの私学助成金単価は、全国最低ランクである。国基準を割り込んでいるのにそれを改善していない、というのはどういうことなのか」という文章を読んでもと難しいことが書いてあるように見えます。だから、これまでしっかりと読んでいませんでした。

ならばそれを分かりやすく言い換えればいいのか。

要するに日本では、私学に通う家庭は公立に通う家庭と比べて明らかに高い学費を支払わないといけなく、ということ。しかも、埼玉県はその差がとくに激しい。

同じだけの税金を納めているのに、同じような教育の保障は受けられない。それは不公平ではないか。たとえば、オランダやスイスなど西欧諸国では、公立私立の扱いに隔たりはありません。基本的に両方とも無償です。それが当たり前なのに、どうして日本では私立学校に通う家庭だけが高い学費を支払わないといけなくのか・・・

知らないと何かを考えることもできない。まじめに資料を探すようになりました。そして、その調べ物の最中に、もっと根本的な部分に関することで、驚きを味わうこととなりました。今では、何十万円も支払わないと高校に入学できない先進国の方が珍しいらしい。西欧では、中学校はもちろんのこと、大学まで無償、もしくは低い学費で行けるのが当然だということです。

中学3年の頃、森の時間（総合学習）の中で、昨今話題の貧困問題について学びました。教室には分からないことを追い求めて、湯浅誠さんや雨宮処凛さんのはなしを聞きに行きました。生の声を聞かないとだめではないか、という議論があったので、野宿生活者の人たちへの炊き出

しに参加して彼らにインタビューをしたこともあります。

そのとき、湯浅誠さんは「教育格差」について語っていました。

「お金のない人は、子どもが生まれてもその子を養えない。だからお金のない家庭の子は、よく中学や高校、大学の途中で退学してしまう。もしくは、最初から高校や大学に入学できないんだ。

「学歴社会」というんだけど、今の日本では卒業した学校によって就ける職業はだいたい決まってしまう。そうすると、その子はあまり良い職業には就けない。はっきり言って派遣や請負といった『不正規雇用』以外にはほとんど職がない。貧困が、世代を越えて伝わっていつてしまうんだ」

貧しさのために大学に通えず、派遣会社に勤めている人のはなしを聞いたこともあります。「世界第2位の経済大国」などといわれる日本なのに、どうして高等教育の保障が欠落しているのか、とても疑問に思いました。

現状を変えようとする動きが活発ではないからなのだろうか。

しかし、教職員の人たちが動けば「左寄りの日教組の策謀だ」などと言われて一斉に叩かれてしまうし、中高に通う学生に、「自分たちで、自分たちの教育を守るんだ」というのはかなり酷なことだと僕は考えます。一応まだ子どもと大人の境にいる過渡期だといえます。誰もが友達との関係に苦しみ、テストの嵐に悩まされています。

自由の森学園には、テストがありません。本当に大事なものは、点数では計れないというのがこの学校の理念だからです。だからこそ、いろんなことと向き合う余裕がある、とも言えます。

私学助成金の問題を知って「公立に通う人に比べて、私立に通う人の方が不利益を被っているのは問題だ」と僕は思いました。だけど、公立に通う人たちから見たらどうでも良い問題なのかも知れないし、国家の財政を担う人間から見たら都合の悪い意見なのかも知れません。

10月下旬、ニュースを見ていて遅まきながら大阪でおきている事態を詳しく知りました。

大阪府知事に当選した橋下弁護士は、6月に『大阪維新』プログラムを立案、それでもって大阪府の財政を復建すると宣言しました。「財政再建・政策創造・府庁改革を3つの柱とする」と記されているから、なんだか素晴らしいものに見えます。だけど、その中身を分かりやすくまとめるなら、「とにかくなんでもカット」ということらしい。福祉や教育に支払うお金もばっさり削るのだといえます。

大阪府は、私学助成も大幅にカットしました。最終的に、小学校と中学校ではそれぞれ25%、高校では10%、幼稚園では5%の私学助成が削減されました。

橋下府知事は、「義務教育ではない以上、所得に応じた学校を選ぶのは当然。公立高校の受験機会は平等に与えられている、落ちて私学に行くのはその人の努力不足だ」と強弁していました。しかし、それは間違っているのではないかと僕は感じました。

そもそも、私立が高いのは当たり前、という認識自体がおかしいのではないかと。公立も私立もどちらも「公教育」とされています。扱いに不平等があってはならない、というのが原則です。

私学の学費が高くなると、お金の問題で私学に入學できない人がでてきます。お金のいる人は自分の好きな学校を選択できるのに、お金のない人は自分の行きたいと願う学校を選択する権利がないのだろうか。

それに、公立に通える生徒数には定員があります。少子化が叫ばれているとはいえ、どうしても公立に行けない人はでてくるし、そういう人は私学に通わざるを得ません。「受験からあぶれた者は学べない」のだろうか。

根本的に、高い学費を払わないと高校にいけない日本の状況がおかしいのかも知れない。しか

し、高等学校の教育無償化が現実化するというのは、あまり想像できません。そこに到達するまでには、かなり厳しい道のりが待ち構えているように感じられます。ならば、もう少し現実に寄り添って、まずは公立と私学との間の格差、不平等を改善しようとしていくべきではないか。

大阪の私学に通う高校生たちも同じことを考えたようで、集会を行ったり、大阪府知事と面会したり、いろんな活動をしていました。応援に行きたいと思いました。大阪の事態は決して他人事ではない。大阪から全国に私学助成金カットの波が広がるかも知れない。けれどさすがに遠い・・・

関東から近畿まで車で行くのは、かなり無理があります。5時間以上かかる計算になります。現実的には、新幹線を使う他なさそうだけど、それだとけっこうな金額になってしまう。行くのは無理だろうか、とっていたのだけど・・・

2008年12月14日(日) 大阪で『好きやねん私学!大阪集会・パレード』というものが開催されました。どうやら、2008年の大阪における活動の総決算らしい。ぜひとも自由の森学園の生徒も参加したいということで、保護者からカンパを集め、結局6名の生徒と数名の保護者、教員が大阪まで行くことにしました。

朝早くから、品川駅に集合。

さぁ出発という段階になって、新幹線に乗るための切符が全員分間違っていたことが分かりました。どうやら買うとき、日時を間違えたらしい。信じられないハプニングでした・・・

結局、JRの窓口の人に頼んで換えてもらい、なんとか新幹線に乗ることができました。新大阪駅まで2時間半程度。新大阪駅から、さらに大阪駅へ。雨が降り出しそうな予感がする曇天でした。到着したらまずは昼食、というわけでお好み焼きを食べました。さすが本場は違う、という声が漏れていました

それから、今回の会場である扇町公園へ歩いていきました。すでに近畿全体からたくさんの高校生が集まっていました。

『ワインディングロード』を近畿の高校生たちが歌い、その次に『羞恥心』や『ポニョ』の歌をどこかの高校の吹奏楽部が演奏しました。それからまじめな話。いま大阪の私学関係者は、私学とは関係のない人たちとも連携しながら、大阪府に対する抗議を始めていると語っていました。

そしてよさこい踊りと群舞があり、盛り上がったところで最後に高校生宣言があって、パレードへと移りました。「イケイケ私学」「私学助成削減反対」「臨時の先生やめさせないで」などと叫びながら、車を通行禁止にした車道上を歩いていきます。いつの間にか、さっきまで空を覆っていた暗雲が去っていき、青空が見えるようになってきました。西に傾いた太陽がまぶしいくらいです。

道を歩く人の誰もがこちらを向いていました。手を振ってくれる人もいます。パレードというよりはデモに近い、と僕は感じました。自分たちの訴えていることを多くの人に知って欲しい、と願い、旗や横断幕を掲げながら、ゆっくりと道を歩いていく。



大阪の町の人たちはどう感じているだろうか。

迷惑だと思う人もいるかも知れません。学生が凄いことやっているなぁと感心してくれる人もいるかもしれません。どう受け取られるかは分からない。

しかし、自分たちから声をあげて訴えなければ、自分たちの意見は黙殺される。別に上手じゃなくても良いから喋り、動いていくことが必要なのだ、と痛感しました。沈黙しては何も始まらない。私学助成カットを黙認しているのと同じことです。

駅近くにたどり着いた時、パレードは終わりました。

開催者の発表によると、参加者は1500人ほど。それだけ多くの人が集まったということに驚いた。近畿ばかりでなく、全国からたくさんの高校生や、教員、保護者が駆けつけたのだろう。

4時頃、帰りの新幹線に乗りました。

帰りは埼玉県庁前で行う予定の集会のことを話し合いました。

埼玉でも、2009年1月5日に埼玉県庁前で私学助成増額を求める集まりを行うことにしていました。嘆願書の提出をその日に行うので、同時に県庁に勤めている人たちに私学助成のことを強くアピールしようというわけです。

やっぱり盛り上がるものが良いということになり、県庁の周りをみんなでマラソンリレーすることにしました。それだけでは見ている人が楽しめないのではないかと、という意見がでたので自由の森学園の民族舞踊部・郷土芸能部・中国舞踊部にも声をかけ、県庁前で踊ってもらうことにします。そうすれば、かなり人目をひくはず。

自由の森学園の中学1年生にハーモニカを吹くのが上手な男の子「ハーモニカ少年」がいます。彼にも声をかけて県庁前で演奏してもらうことにしました。

ついでに、1週間後の12月19、20日には音楽祭が控えていたので、学校には音楽祭のために合唱の練習に励んでいる人たちがたくさんいます。そういう人たちにも声をかけてみることに決めました。そういうふうにして、いろんな人を誘っていき、出来たら800人くらいの人を集めたい、と話し合いました。

あと、テーマを考えました。「チェンジ埼玉」「学ばせろ」などたくさんの意見がでたけれど、最後には「ヤバいぞ！埼玉」に決めました。

「ヤバいぞ！埼玉」には2つの意味があります。

埼玉県では、約6万人の生徒が私学に通っている。県内高校生の3分の1が私学で学んでいることになる。それなのに現在、私学に対する補助は抜け落ちていて、国基準にすら達していない。このままいくと、さらに私学助成がカットされるかも知れない。そういう意味で埼玉の現実「ヤバい」。

だけどこれからは、私学に通う生徒がしっかりと現実と対峙していくのだ。だから、埼玉の高校生は「ヤバい」、つまり「カッコイイ」。

良い意味での「ヤバい」と悪い意味での「ヤバい」が並列しているというわけです。

それを決めたあと駅弁を食べていたら、新幹線は東京に到着。みんなと別れて家に帰りました。

大阪から帰ってきてからは音楽祭などがあったため、けっこうどたばたしていました。1月5日のことを相談するひまはほとんどなく。クリスマスや大晦日、新年といろんなことがあったため、新年早々県庁の周りをマラソンするのだ、ということを僕はすっかり忘れていました。しかも、1月3日には、風邪をひいてしまい。あっという間に1月5日はやってきてしまいました。

2009年1月5日。快晴。

僕は、くしゃみをしながら埼玉県庁のあるさいたま市浦和区へ向かいました。11時ごろに到着。遅刻してしまいました。6時ごろから準備していた人もいた、とあとで聞きました。近くに

場所を借りて、温かいとん汁と、おにぎりを用意してくれていました。

私学助成大幅増額を求める1.5埼玉県庁マラソンリレーは始まっていました。眺めていると、新年早々、埼玉の私学の関係者がたくさん集まってきているのがよく分かりました。たすきを掲げながら走っている人もいます。県庁の周りを68周するべく、ランナーが続いていきます。

なぜ68周なのかというと、「68」が私立と公立の違いを際立たせる数字だからです。

「初年度納入金」という言葉があります。「初年度納入金」とは、入学したての1年生の時に払う入学金や授業料、設備費を総合して、足し算したものです。埼玉県内の私立高校に通う家庭の初年度納付金の平均額は、約80万円。一方、県立高校に通う家庭の初年度納付金は、約12万円。68万円のひらきがあります。

だから68周。

次々と、たすきがつながれていきます。

生徒だけではなく、保護者や教員、私学のことを応援してくれている人達も走ってくれました。1人ではなくて、2、3人で走る人もいました。中には飛び入り参加する人もいました。走る距離は約800メートル。

たすきが渡されるたびに細々と歓声が上がります。

マラソンの一方、埼玉県庁の前では何十分かごとに民族舞踊や中国舞踊を踊り、盛り上げました。「ハーモニカ少年」がハーモニカを吹くと、そのプロ並の腕前に拍手が巻き起こりました。

そういう派手なパフォーマンスだけではなくて、歩道にたつて地道にチラシを手渡しすることも行っていました。道行く人に私学助成のことを知ってもらうためです。

県庁に勤めているらしい人たちが、駅方向から県庁までぞろぞろと歩いてきます。すかさず、チラシを渡します。足早に過ぎていく人もいれば、頷いて受け取ってくれる人もしました。どう思ってくれるかは分からない。だけど、まずこちらから訴えかけなければ何も応答はありません。なんとなく手をこまねているわけにはいかない。

午後3時頃、僕も59周目を走った。800メートルを走るのはきつかったです。途中で歩いてしまいました。でも一応ぐるっと県庁を周り、たすきはつなぎました。68周目は目前です。

県庁前での最後のアピールとして、自由の森学園の音楽祭に参加した有志のグループ「リザウンド」が、その日だけ特別に再集結して浦和に歌声を響かせました。その合唱が終わったあと、もう少しで最後のランナーが戻ってくるということで日が翳ってきて寒くなった県庁前で、100人以上の人が待っていました。

68周目の人が還ってきて、ゴールテープをきると拍手が巻き起こりました。

そうして最後の全体集会となりました。埼玉の教職員組合の代表や、生徒の代表、保護者の代表が、今日は良かった、ありがとう、これからもよろしくと言って入れ替わり立ち代り挨拶。それが終わったあと、高校生宣言の読み上げがありました。「教育に公平を！」と叫ぶ高校3年の人の声が響き渡りました。

そうして、私学助成大幅増額を求める1.5埼玉県庁マラソンリレーは終わりました。



埼玉新聞など地域の新聞は、このことを記事にして紹介してくれました。少しだけ、何かできたような気がします。でも、まだまだ小さな活動に過ぎません。

最終的に、参加者は約200人。800人を目指していたのだから、目標にはほど遠いといえます。自由の森学園の生徒や保護者は大勢いたけれど、他の私学から来ている生徒はほとんど見かけませんでした。埼玉中の私学を巻き込んでいかなければならないのだろうなあと思います。

それにしても、まさか「学ぶために闘う」、「学ぶ場を守るために闘う」とは思ってもみませんでした。学校があるのは当たり前。そこで学べるのも、遊べるのも当たり前だと思っていました。でもそうではないらしい。どうやら自分達自身で自分達の場所は守り、創り上げていく必要があるようです。

とても難しい課題ではありますが、もう高校生なのだから守られているだけではダメなのではないか。しっかりと立ち上がって、自らの前に存在する問題と向き合わなければならない、という気がします。知ってしまったらからは引き下げられません。

もちろん力及ばないこともあるだろうと予想できます。だからといって最初から「高校生は無力だ、何も出来やしない」と諦めるのは自分に対して無責任ではないか。

僕は基本的に後ろ向きの人です。以前だったら、ここまで積極的になることはなかったはずです。新潟へ行き、大阪へ行き、埼玉県庁の周りを巡ったことで何かが変わったのかも知れない。

しかしそれは、ほんの少しの変化に過ぎない、ともいえます。私学助成金の問題を知ってから、結局のほほと過ごしている。もっと強く「どうして不公平、不平等がまかり通っているのか」と叫び、怒らないとダメなのかも知れません。怒るなんてかっこ悪い、クールじゃない、と言う人もいます。でも、おかしいと感じていることに関して黙り込むのは、もっとかっこ悪いと僕は感じます。無闇に怒り狂うのでは誰にも伝わらないから意味がありません。だけど、怒りを冷静に制御し、それを言葉に換えて発信するのは大切だと思います。



まず自分なりの思いを持たなければ、方向が定まりません。まずは学び、間違っているかも知れないけど思いを持ち、考える。その上で、動き出す。そして、人の意見に接して自分の意見を改良しながら進んでいく。いったいどこへたどり着くのか。それは、神のみぞ知ることではないか。

進んでいくその過程こそが楽しいんだ、というのが今のところの僕の結論です。

おわりに

読んで頂き、ありがとうございます。タイトルをどうしようか。とても迷いました。「一緒に走ってみませんか？」じゃ押し付けがましいかなあ、とも思ったけど、良い案が思いつかない・・・

全体的に堅苦しい理屈っぽいのはなしばかりになってしまった気がします。書いているほどに何ができていないわけでもないのですが・・・ まあ「偉そうになんか色々理想を書きやがって、本当にできるのか？」くらいに思ってくれたら嬉しいです。

まだまだ、ゴールテープは見えません（というかそんなもの存在するのかなあ。）